

大学院の教育課程（案）

1 教育課程編成の方針

本課程の設置の趣旨及び教育目標を達成するため、科目区分を設け必要な授業科目を配置するとともに、当該科目区分ごとに履修要件単位数を定め、体系的な教育課程を編成し、研究指導を体系的・組織的に展開する教育・研究環境を整備する。

（資料：複合芸術研究科博士課程教育課程概念図）

教育課程の編成に当たっては、専門分野に関する高度な専門知識及び能力を習得させるとともに、関連する分野の教育を行う。

なお、本計画は平成 17 年 9 月 5 日中央教育審議会答申「新時代の大学院教育」及び平成 29 年 2 月 14 日中央教育審議会大学分科会まとめ「今後の各高等教育機関の役割・機能の強化に関する論点整理」を踏まえ、以下の取組を特色とした教育課程を編成し、教育・研究を行う。

2 教育課程編成上の特色

(1) 課程制大学院の趣旨に沿った教育課程・研究指導

科目区分を設けて授業科目を配置するとともに、当該科目区分毎に履修要件単位数及び修了要件単位数を定め、体系的・組織的な教育課程ができるよう配慮する。

(2) 複合芸術の自立的な研究を支えるチーム指導科目の設定

学生が行う複合の視点からの理論化・体系化を効果的に進められるよう、テーマに関わらず求められる基盤となる知識や研究・分析手法等を修得させたいうで、表現と理論双方からの多面的な考察を、個々の専門性が異なる表現系教員と理論系教員がチームで指導できる科目を設定し、新たな価値の創出につながる領域の横断、拡張に向けた自立的な研究を支える環境を整える。

(3) 単位所得による修了要件の明確化

課程制大学院の教育課程として、科目毎の単位数と修了要件単位数を設定する。学生に対しては、履修モデルを明示し、3年間を通じて体系的・組織的な学修スケジュールを提供する。また、研究指導科目を「複合芸術特別研究Ⅰ」、「複合芸術特別研究Ⅱ」、「複合芸術特別研究Ⅲ」で構成し、3年間の通年開講科目として単位数（必修8単位）を定める。

3 科目区分及び授業科目の特色及び履修方法

(1) 構成・単位数・修了要件

教育課程は、「研究基盤科目」「研究展開科目」「研究指導科目」による構成する。

①研究基盤科目

「研究基盤科目」には、学生が自立的な研究を進める際に、研究テーマを問わず共通して必要となる調査方法、分析方法、評価方法等を修得することを目的とした基盤となる科目を配置する。

「複合芸術研究法（1単位）」では、3年間の研究活動を俯瞰しながら、今後、各自のテーマに基づいて進められる複合の視点からの「表現の研究」、「理論の研究」に向けて、表現研究の対象選定とアプローチ、論文作成に求められる手順や解析の手法などを理解する。「表現の研究」については、研究テーマとする表現分野に関連する事例の選定、複合の視点からの要素分解と解析、仮説の設定、具体的な実践を基にした表現手法の検証などを通じて、自身の軸を踏まえた領域横断的な表現の拡張に向けた道筋を概観する。また、「理論の研究」については、「表現の研究」の手順に加えて、学術論文の基本的な枠組みや構成要素を理解し、文献検索や研究事例の収集、仮説設定と実験手法、データの収集と整理、理論検証、考察手法等を学び、自らの論文作成を効率的に進めるための方法を修得する。なお、「表現の研究」と「理論の研究」は、相互に深く関連するものであることから、表現研究系の指導を行う教員と論文研究系の指導を行う教員がオムニバス方式で集中的に開講する。

②研究展開科目

「研究展開科目」は、本課程における現代芸術を対象とした「複合の視点」からの研究の根幹を成す「表現」と「理論」双方からのアプローチとその相互応答を踏まえた新たな表現拡張と理論化・体系化につながる中心的科目を配置し、博士論文作成に向けた実践的研究を展開する。

研究展開科目では、「複合芸術表現研究Ⅰ、Ⅱ」（各2単位）、「複合芸術理論研究Ⅰ、Ⅱ」（各2単位）の計4科目を1、2年次に開講する。

上記のうち「複合芸術表現研究Ⅰ」と「複合芸術理論研究Ⅰ」については、1年次を通じた隔週の交互開講とし、研究テーマを踏まえながら、表現研究を指導する教員2名と理論研究を指導する教員2名がそれぞれチームを組成し、具体的な事例を対象とした仮説の設定と検証などを含む実践的な研究の指導・支援を通じて、「分析力・解析力」を修得させる。なお、当該科目の指導に関わる教員は、研究の進行に応じた表現と理論の関連等が効果的に整理されるよう、適宜両チームによる協議を行う。

また、2年次を通じて同様に開講する「複合芸術表現研究Ⅱ」と「複合芸術理論研究Ⅱ」については、1年次の体制を継続し、博士論文の作成を見据えて、表現と理論の相互に裏付けられた研究成果のさらなる探求を通じて、「転換力・応用力」を修得させる。

③研究指導科目

「研究指導科目」は、「複合芸術特別研究Ⅰ」（2単位）、「複合芸術特別研究Ⅱ」（2単位）、「複合芸術特別研究Ⅲ」（4単位）の合計8単位とし、3年間の通年履修となる必修科目として配置する。

当該科目では、学生の主体的な研究をサポートするため、研究指導教員等の助言・指導を踏まえて研究テーマを設定したうえで、3年間の継続研究をもとに最終的に博士論文を取りまとめる。学生は、研究指導教員との協議のもとで研究計画を立案し、自ら進行をマネジメントしながら研究を深化させ、所期の成果が得られるよう研究を進める。

(2) 配当年次の考え方

本課程では、学生が体系的に科目を履修し、研究指導を受けられるように配当年次を設定する。

「研究基盤科目」として、学生が自立的な研究法を修得する「複合芸術研究法」を1年前期の第1週に集中的に開講する。

「研究展開科目」のうち、「複合芸術表現研究Ⅰ」と「複合芸術理論研究Ⅰ」は、「複合芸術研究法」を学修した後に、1年前期及び後期を通じて隔週で交互に開講する。

また、1年次の研究成果を踏まえて、表現と理論の両面からの研究をさらに高度化させることを目的に「複合芸術表現研究Ⅱ」と「複合芸術理論研究Ⅱ」を2年前期及び後期を通じて隔週で交互に開講する。

研究指導科目である「複合芸術特別研究Ⅰ」、「複合芸術特別研究Ⅱ」、「複合芸術特別研究Ⅲ」の3科目については、1年次から通年の3年間に渡って開講し、研究指導教員が継続的に指導を行う。